

開催概要

| | |
|-------|--|
| 名 称 | 第 28 回 信濃川やすらぎ堤利用調整協議会 |
| 日 時 | 令和 8 年 1 月 21 日 (水) 午後 2 時 00 分 ~ 午後 4 時 00 分 |
| 場 所 | 新潟市役所 ふるまち庁舎 5 階 ミーティングルーム |
| 委 員 | 中村 美香 (特定非営利活動法人まちづくり学校 事業推進部コーディネーター) 金澤 ゆかり (新潟日報社 企画総務局次長兼資産管理運営企画部長) 高松 智子 (ユニバーサルカラープランナー協会 会長) 高橋 邦夫 (特定非営利活動法人地域インフラ研究会 理事長) 小沢 謙一 (新潟商工会議所 理事・事業部長) 田中 雅史 (新潟市中央区自治協議会 委員) 栗林 孝典 (国土交通省北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所 事務所長) 佐久間 なおみ (新潟市中央区 区長) |
| 事 務 局 | 新潟市 (まちづくり推進課) 国土交通省北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所 |
| 施設使用者 | 株式会社 スノーピーク |

議事要旨

■議題 1 報告事項

●スノーピークから説明。

・アウトドアラウンジ

飲食店の実績として 6 店舗が出店し、うち、新規店舗が 1 店。

売り上げは約 6,800 万円、客数は約 21,000 人。

- ・ 6 月、7 月は TV 広報もあり反響があったが、8 月は悪天候が多くまた、気温が暑くなった日も多く気象に左右されたこともあり 8 月の低迷を盛り上げられなかった。

・キッチンカー

4 店舗とも初出店だった。コミュニケーションがとれる場所として利用される機会があった。

・スノーピーク自社イベント (BBQ レンタルプラン)

これまで実施していたデイキャンプは何ができるのか明確ではないところがあったが、今年は、用途をシンプルにして BBQ ができるプランに変更したことで、前年度の自主イベントを上回る利用だった。

利用者は大学生 20 代がメインだった。(感覚としては 7 割 8 割)

・空間づくり

劣化しても見た目の変化がわかりにくいアイボリー系のテントで対策した。

次年度以降もできるかわからないが見栄えについては引き続き意識して次年度も検討予定。

・サービスの質

料理の盛り付けなどが写真と違った場合に店舗へ指摘して対応していただいた。

店舗サービスについても現地で気になる点を管理した。

破損設備の入替を行った。

アウトレット価格で入替えた備品を販売して入替に継続性を持たせられるようにした。

管理をしたことで設備に関するクレームや意見はなく一定の成果があったと考えている。

・地域連携

近隣小学校の総合学習の一環でマルシェを開催する場としてやすらぎ堤を提供した。

11月7日に実施。キッチンカーとメニューを共同開発して販売体験したもの。短時間であったが学生も熱心に取組みすごく盛り上がった。学校との連携も引き続き行って行きたい。

●委員からの主な質問・意見と回答

・感想となるがBBQプランが若年層に好評だったことも有り、今後、文化活動の打ち上げ場所などとして浸透して行くと身近な快適さを覚えられる場所として、Uターンにもつながると思う。

⇒人と人を繋げるという社内の理念も踏まえてスノーピークとしても積極的にかかわって行きたい。

・ミズベリングなどこのようなイベント事は、まずは経験してみると楽しめるものだが、なかなか腰が重いものだと思う。アーバンリゾートという非常に貴重な場所があるものを活かさない点はないと思う。

・工夫、分析をしており、多世代の方に楽しんでいただけたという成果があったと思う。天気は課題と思うが引き続いてイベントを実施していただきたい。

・新潟の食材を使ってより新潟らしいメニューを提供できるとよいと思った。

・キッチンカーについて、リピーターをつくるといったチャレンジ枠も大事だと思うなかでその延長線のひとつだということで良いコンテンツだと思う。

⇒水辺アウトドアラウンジはベネチア・コペンハーゲンなど川辺のマーケットをイメージしている。

学生のフリマ出店など、食にフォーカスしていた点を広げて行きたい。

・萬代橋側のエリアにいても目立つ場所でもあるため上手な活用を検討できると良いと思う。

⇒下流側はテント設置が難しいが、キッチンカーなどを並べて出店できるようなことを目指したい。

・現地にいた際に、大人はBBQで楽しみその近くで子どもはウォーターパークで楽しんでいる様子が見られ満足度が高いイベントと感じた。

・ファミリー層の満足度をいかに高められるかと考えてみたなかで、花火は満足度を上げられるイベントではないかと考えている。芝の管理はあると思うが、水辺アウトドアラウンジでは、焚火もやっているので手持ち花火の程度はできるのではないかと考えている。ごみ問題もあるため自由持ち込みには制限があると思うが、河川管理者としてはそのようなイベント実施については認めたいと考えている。

・8月のイベントが少ない。好評なイベントは繰り返し実施してほしい。

・雨に濡れても楽しいよという感覚のイベントを展開してほしい。

●事務局(新潟市)から説明

・新潟市が実施した取り組みについての報告を行った。

・事業の実施結果やアンケート結果などから、「賑わいの創出」「魅力と価値の向上」「取組の持続可能性」という観点でのまとめを報告した。

・今年度の取組についてスノーピークと新潟市で各々に6つの項目で自己評価について報告した。

●委員からの主な質問・意見と回答

・ポスターの掲示については「歩いて〇分」といった、個々の場所に応じたお知らせがあると効果的だと思う。

・インフルエンサーによる動画活用なども活用されると宣伝効果が高いと思う。

⇒スノーピーク・店舗と協力してコンテンツを作って動画の発信などをしていきたい。

・サービス側の発信よりSNS利用者側の発信の方が効果が大きいと考える。

- ・写真コンテスト、灯籠流しなど、変化のあるイベント展開が良いと思う。
- ・バスセンターなどから、どのように行けばよいのかという導線がないということが気になっていた。
- ・集合場所がない。インフォメーション+ベンチなどシンボルとなるような設えもあるとよいと思う。
- ・持続可能性について、本当の要因を丁寧に分析してほしい。各店舗が抱えている課題を洗い出すことが重要だと思う。

■議題2 今後のスケジュール

●事務局(新潟市)から説明。

- ・次年度は6月11日～14日に国際青年会議所 JCI アジア・太平洋会議 (ASPAC) の総会が新潟市で開催されることが決まっている。
- ・水辺アウトドアラウンジのグランドオープンを10日程度早める予定。平日の夜にオープニングセレモニーを開催したいと考えている。
- ・次回の協議会開催は、5月の連休明けに予定している。
- ・10周年イベントについては、やすらぎ堤全体の整備完了に向けた取組との連携にシフトして、企画検討を行う予定とした。